

瑞浪市駐車場整備事業経営戦略(改定版)

団 体 名 : 瑞浪市

事 業 名 : 駐車場事業

策 定 日 : 令和 2 年 4 月

改 定 日 : 令和 7 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 2 年度 ~ 令和 11 年度

※複数の駐車場を有する事業にあつては、駐車場ごとの状況が分かるよう記載すること。

1. 事業概要

(1) 事業形態

法適(全部適用・一部適用) 非 適 の 区 分	非適用	事 業 開 始 年 月 日	① 昭和57年8月2日 ② 平成16年4月1日
職 員 数	1人(兼務)	施 設 名	① 瑞浪市浪花駐車場 ② 瑞浪市駅北駐車場
種 類	① 都市計画駐車場 ② 届出駐車場	構 造	広場式
立 地	駅	建設後(建替後)の経過年数	(浪花駐車場) 41 年 (駅北駐車場) 19 年
駐 車 場 使 用 面 積	(浪花駐車場) 1,672 m ² (駅北駐車場) 10,200 m ²	収 容 台 数	(浪花駐車場) 46 台 (駅北駐車場) 370 台
営 業 時 間	24時間		
民 間 活 用 の 状 況	ア 民間委託	保守管理業務を民間委託	
	イ 指定管理者制度	—	
	ウ PPP・PFI	—	

(2) 料金形態

※近隣駐車場に比較して減免を行っている場合は、その点についても記載すること。

営業時間 区分	午前0時～午後12時
------------	------------

基本駐車料金	30分まで無料。30分を超えて4時間まで100円。以後4時間ごとに100円加算。		
プリペイドカード ()は利用可能額	10,000 (11,000) 円	5,000 (5,300) 円	
料 金 形 態 の 考 え 方	経営状況や近隣の民間駐車場の料金設定などを総合的に勘案し、条例で料金を設定している。		
料 金 改 定 年 月 日 (消費税のみの改定は含まない)	平成26年4月1日		

(3) 現在の経営状況

※直近の経営比較分析表(「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」(公営企業三課室長通知)による経営比較分析表)を添付すること。

・別紙1「経営比較分析表(令和5年度決算)」のとおり。

・駅北駐車場、浪花駐車場ともに、収益的収支比率は100%以上であり、新型コロナウイルスの影響により、令和2年度の駐車場利用者は大幅な減少となったが、近年はコロナ禍前の9割の水準まで戻ってきており、安定的な経営状況である。

2. 将来の事業環境

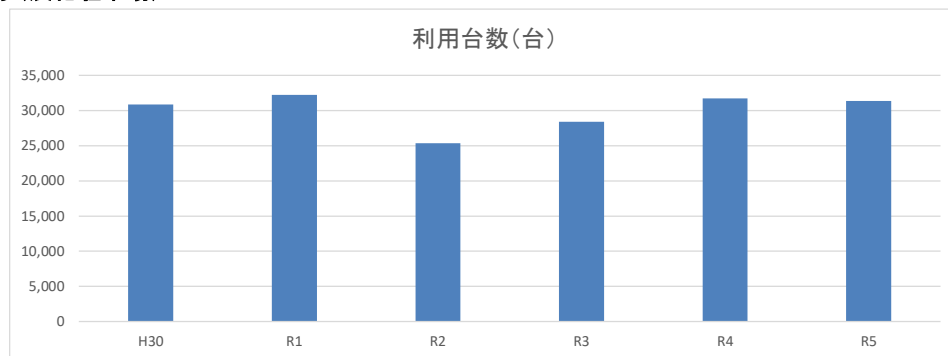
(1) 駐車場需要の見通し

・JR瑞浪駅に近い駐車場であり、通勤通学での利用者が主である。事業を開始して以降、令和2年の新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言が発出された年を除くと、概ね利用台数は右肩上がりに推移していることから、今後も安定した需要が見込まれる。また、瑞浪駅周辺まちづくりとして、駅北地区では令和10年度開業を目指し、中央公民館の機能の一部と図書館に新たな機能を加えた複合公共施設の整備を計画していること、駅南地区では組合施行による第1種市街地再開発事業を計画していることから、駅周辺の商業施設等の利用者による利用が見込まれる。

・今後の少子高齢化等に伴い、駐車場需要は減少することが予想される一方、中心市街地活性化施策の実施などにより、駐車場需要が増加に転ずることも想定されるため、今後の駐車場需要及び今後の動向については現状を維持するものとした。

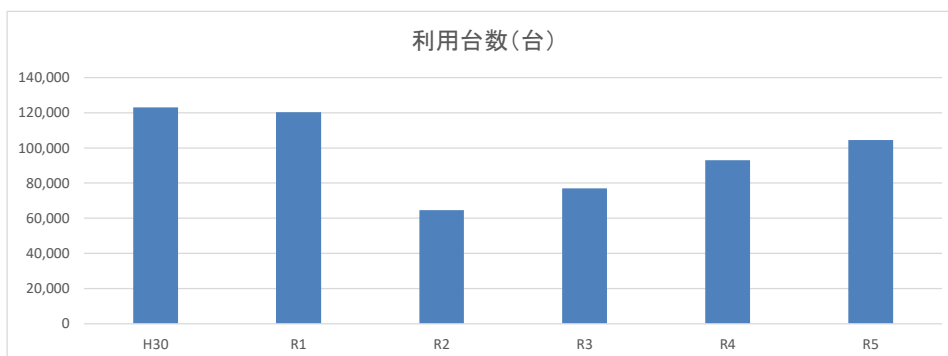
平成30年度からの利用台数の推移(浪花駐車場)

年度	利用台数(台)
H30	30,899
R1	32,259
R2	25,342
R3	28,420
R4	31,725
R5	31,354



平成30年度からの利用台数の推移(駅北駐車場)

年度	利用台数(台)
H30	122,972
R1	120,391
R2	64,640
R3	77,021
R4	92,992
R5	104,534

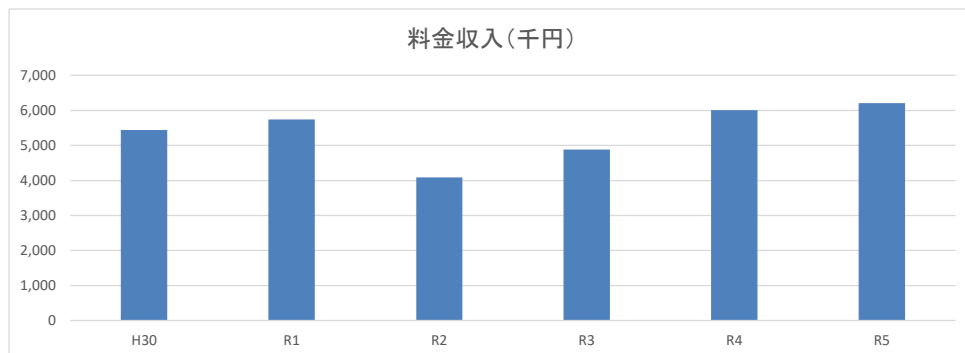


(2) 料金収入の見通し

平成26年度に駐車料金を改定して以降、平成30年度まで増加傾向であったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行により減少した。その後は安定して料金収入が増加している。著しい料金収入の増加は見込めないが、外的要因等が無い場合、安定した料金収入が見込まれる。

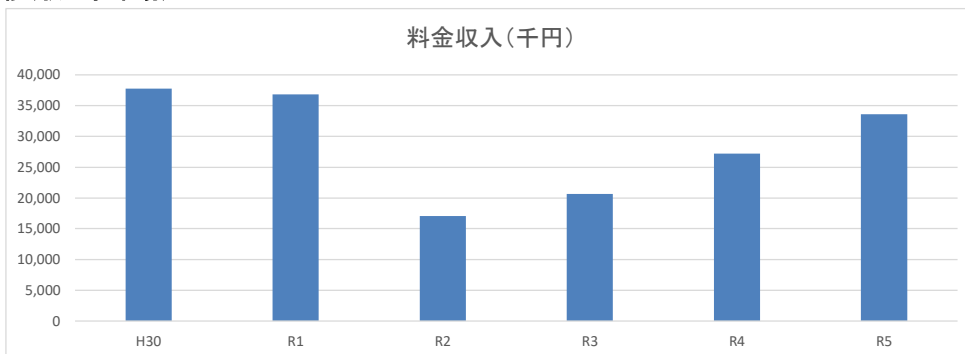
平成30年度からの料金収入の推移(浪花駐車場)

年度	料金収入(千円)
H30	5,439
R1	5,739
R2	4,088
R3	4,875
R4	6,007
R5	6,211



平成30年度からの料金収入の推移(駅北駐車場)

年度	料金収入(千円)
H30	37,777
R1	36,833
R2	17,078
R3	20,643
R4	27,222
R5	33,572



(3) 施設の見通し

- ・駅北駐車場、浪花駐車場ともに、安全性を確保しながら、多くの利用者が快適に利用できるよう、定期的な点検等を実施し、安全性への影響を与えるような劣化・損傷の程度や原因等を適切に把握し、維持管理に努めます。
- ・駅北駐車場については、瑞浪駅周辺再開発事業の中で一部拡張工事を行う計画である。

(4) 組織の見通し

現在は兼務職員1名体制であり、今後も同様の体制で運営する予定。

3. 経営の基本方針

本市駐車場整備事業の現状と課題を踏まえ、将来にわたり持続可能な事業運営を行うため、次の4つに基本方針を設定している。

1 経営基盤の強化

今後の人口減少等による使用料収入の減少が見込まれる中、安定した経営を実現するため、委託料の削減を目的とした包括委託の実施、中長期的な駐車場利用を可能とするために計画的な修繕の実施を行います。

2 利用者の満足度向上

計画的な修繕や清掃業務の委託等により、清潔感のある駐車場を維持することで、利用者の満足度向上及び利用者増加を目指します。

3 大規模修繕等を見据えた財源の確保

今後、実施が想定される市営駐車場のアスファルト舗装の修繕等に多額の費用が必要となります。それらの費用にかかる財源は、毎年の決算剰余金を積み立てて確保します。

4 駐車場使用料の据え置き

今後、人口減少が進むことにより、駐車場利用者の減少が想定されます。駐車場利用者が減少することで、使用料収入の減少が見込まれますが、経費等の削減を図ることで黒字経営が維持できるため、料金改定は行いません。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙2のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	継続した安定経営のため、計画的に施設改修を実施していく
-----	-----------------------------

ストックマネジメント手法を活用したライフサイクルコストの低減化に取り組み、適正な維持管理を行っていくとともに、既存施設の優先順位付けを行ったうえで、施設の点検、修繕、改修を効率的に進めていきます。

② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	料金収入による安定経営を図る
-----	----------------

本特別会計は一般会計からの繰入れを行わず、料金収入で運営をしている。今後の運営についても、一般会計からの繰入れをしないよう計画的な投資に努め、安定経営を図る。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

- ・支出の抑制、サービスの向上に努め、安定経営を図る。
- ・駐車場機器類の保守管理業務を民間委託している、今後も引き続き民間委託により実施する予定である。

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

※投資・財政計画(収支計画)に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。

また、(1)において、純損益(法適用)又は実質収支(法非適用)が計画期間の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュールや必要に応じて経費回収率等の指標に係る目標値を記載すること。

① 今後の投資についての考え方・検討状況

民 間 活 用	保守管理業務については、今後も民間委託を行なう。
駐車場の配置の適正化	—
投 資 の 平 準 化	修繕や設備投資については、計画的な投資を行う。 予防保全型の維持管理を実施することで投資の平準化を図る。
そ の 他 の 取 組	瑞浪駅周辺再開発事業の中で、駅北駐車場の一部拡張工事を実施する予定。

② 今後の財源についての考え方・検討状況

料 金	近隣の駐車料金を考慮し、安価な料金設定としている。現在、料金の値上げ等は考えていないが、近隣駐車場の状況を見ながら検討していく。
利用者増加に向けた取組	駅北駐車場・浪花駐車場は、JR瑞浪駅周辺に位置しており、通勤通学の利用者が主であるため、比較的長時間の利用となる傾向がある。稼働率を上げる取り組みにも限界があるが、駅周辺の再開発事業に伴う 中心市街地の活性化による利用者の増加を図りたい。
企 業 債	令和9年度で起債の償還は終了する。
繰 入 金	現在、繰入金は無く、今後も繰入金を要する見込みはない。
資産の有効活用等による 収 入 増 加 の 取 組	—
そ の 他 の 取 組	—

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

委 託 料	保守管理業務を民間に委託し、効率的な運営を行う。
管 理 運 営 費	—
職 員 給 与 費	1名の人件費を経費としている。
そ の 他 の 取 組	指定管理者等への委託を含めた、民間ノウハウの利活用について検討を行う。

5. 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供するサービス自体の必要性	JR瑞浪駅利用者等の駐車場需要に対し、安定的な駐車スペースの供給を図る施設となっている。
公営企業として実施する必要性	JR瑞浪駅利用者の利便性及び駅周辺の道路交通の円滑化や中心市街地活性化を図るため。

6. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、 改定等に関する事項	経営比較分析表を活用しながら、3～5年程度を目途にPDCAサイクルによる進捗状況の検証・評価を行う。また、利用者ニーズや社会環境の変化等を踏まえ、適宜見直しを行っていく。
-------------------------	---

経営比較分析表（令和5年度決算）

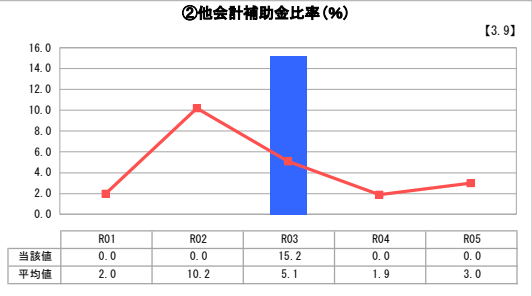
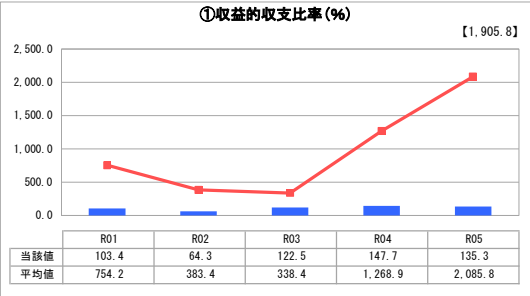
岐阜県瑞浪市 瑞浪市駅北駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 3 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	届出駐車場	広場式	19	

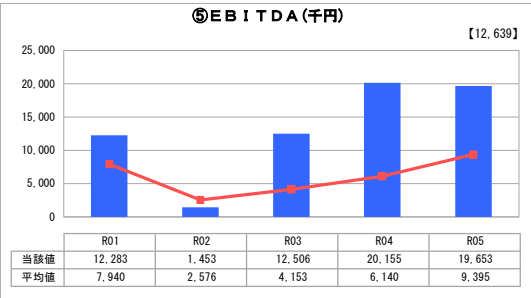
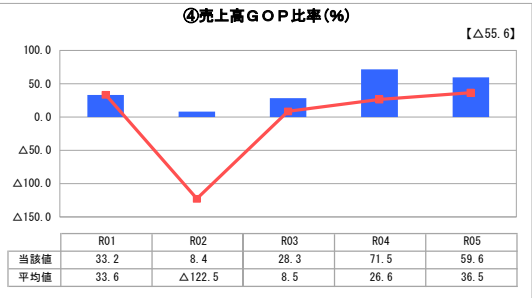
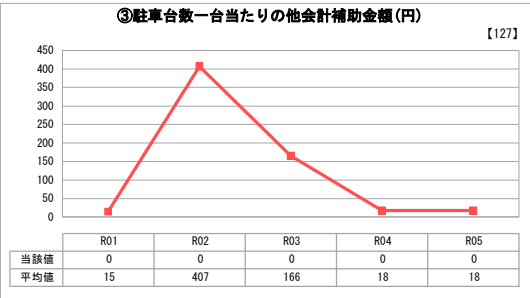
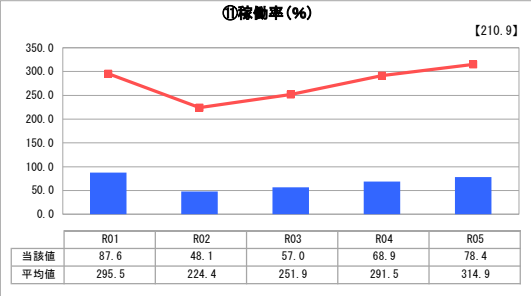
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	10,200
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
370	25	無

グラフ凡例
■ 当該施設値（当該値）
— 類似施設平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 収益等の状況



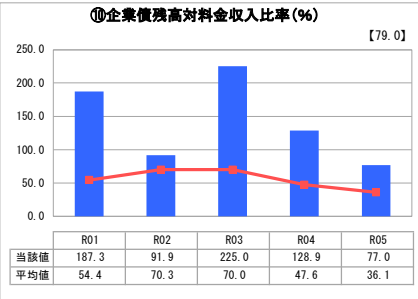
3. 利用の状況



2. 資産等の状況



⑦敷地の地価(千円)
291,057
⑧設備投資見込額(千円)
24,500



分析欄
1. 収益等の状況について ①『収益的収支比率』は、100%を超えていることから健全性は確保されており、事業運営は安定しています。④『売上高GOP比率』及び⑤『EBITDA』については、類似施設平均値を超えており、収益率は高いと考えます。駐車場維持管理に係る費用を抑制し、さらに効率的な運営を行うよう努めます。 * 左記グラフ数値について、下記のとおり訂正します。 【令和3年度】 ③駐車台数一台当たりの他会計補助金額 誤：0 → 正：40 ④売上高GOP比率 誤：28.3 → 正：71.7 【令和5年度】 ①稼働率 誤：78.4 → 正：77.3
2. 資産等の状況について 駐車場整備供用開始から19年が経過しており、健全な運営を行っていくため計画的な施設更新が必要となります。企業債の償還については、令和9年度をもって終了します。
3. 利用の状況について ①『稼働率』について、当施設は類似施設平均値を下回っています。理由として、主な利用者が通勤・通学者であり、長時間の駐車利用となるため、稼働率はあまり高くない状況があります。
全体総括
当該事業は黒字事業であり、令和3年度以降は新型コロナウイルス感染症による影響が緩和され、利用台数・料金収入が増加しています。今後も、より効率的な運営を行うため、維持管理費の抑制や利便性の向上に努めます。

経営比較分析表（令和5年度決算）

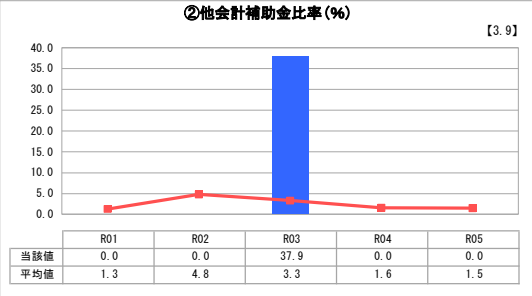
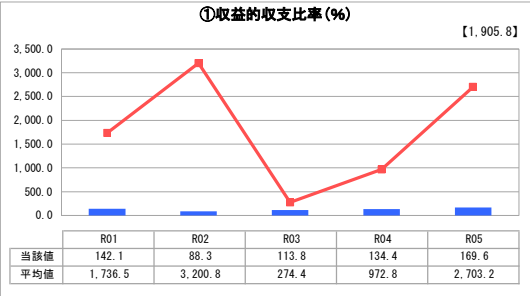
岐阜県瑞浪市 瑞浪市浪花駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 3 B 2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	広場式	41	

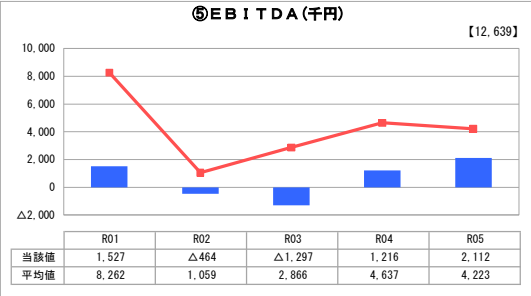
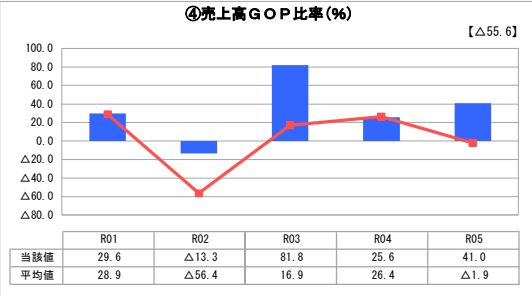
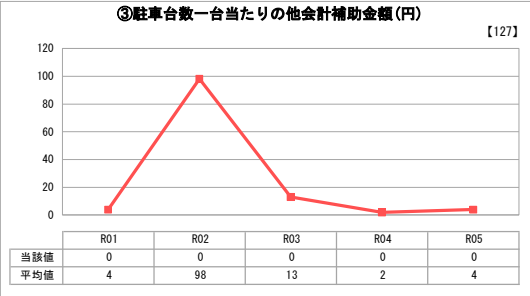
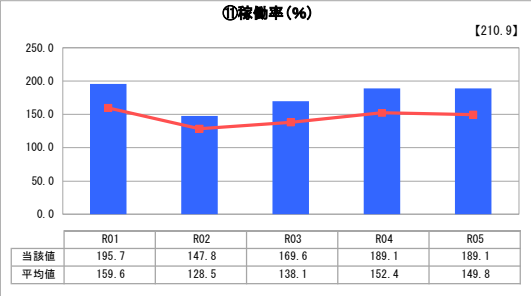
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
公共施設	無	1,672
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
46	25	無

グラフ凡例
■ 当該施設値（当該値）
— 類似施設平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 収益等の状況



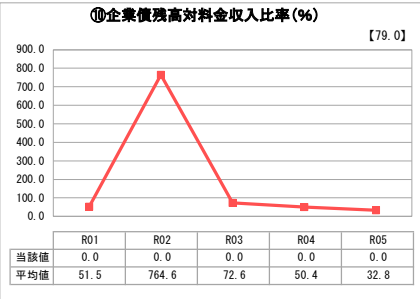
3. 利用の状況



2. 資産等の状況



⑦敷地の地価(千円)
88,562
⑧設備投資見込額(千円)
9,500



分析欄

1. 収益等の状況について

①『収益的収支比率』、④『売上高GOP比率』及び⑤『EBITDA』については、前年度比で数値が上昇しています。新型コロナウイルス感染症の影響からの回復により、駐車場利用者が増加したことが主な要因と考えられます。

②『他会計補助金比率』、③『駐車台数一台当たりの他会計補助金額』については、令和4年度以降は一般会計からの繰入に依存せず、安定的な事業運営を行っています。

* 左記グラフ数値について、下記のとおり訂正します。
【令和3年度】
③駐車台数一台当たりの他会計補助金額
誤：0→正：72
【令和5年度】
①稼働率
誤：189.1→正187.0

2. 資産等の状況について

供用開始から41年が経過し、施設の老朽化が進んでおり、設備更新を計画的に進める必要があります。

3. 利用の状況について

当該施設は、周辺商業施設や駅利用者の駐車場としての利用が定着していることから、類似施設平均値との比較においても、適正な稼働率を維持しているといえます。

全体総括

当該事業は黒字事業であり、令和3年度以降は新型コロナウイルス感染症による影響が緩和され、利用台数・料金収入が増加しています。

今後も、収支のバランスを取りながら、安全性や利便性の向上のため、老朽化する設備機器等の更新について、対応を検討していく必要があります。

[illegible]